

〇〇科学習指導案(〇次案) 〇学年
 単元名『〇〇〇〇〇〇』

平成〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
 授業会場 〇年〇組教室
 〇年〇組 男子〇名 女子〇名 計〇名
 指導教官 〇〇 〇〇教諭
 授業者 〇〇 〇〇

- 1 本時の位置 (全〇時間扱い中の第〇時)
 前時：〔 こんな前時の学習活動 〕をした。
 次時：〔 こんな次時の学習活動 〕をする。

- 2 本時の主眼
 (こういう意識や願いの) 子どもたちが〔 こんな学習問題 〕の場面で,〔 こんな学習課題 〕をして,〔 こんな全体追究 〕をすることを通して,〔 こんなねらい 〕ができる(わかる)。

- 3 指導上の留意点
 ・〔その物を用意する理由〕ことができるように,〔その物〕を〔これだけ〕用意する。
 ・〔このように安全に学習することができるように(こんな危険がないように)〕,〔このような安全上必要な配慮〕をする。

4 本時の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
	※主語は子ども(主語はつけないが)			※支援は「意図(〜ことができるように), 支援の内容(〜する)」
導 入	1 (学習問題につながる)〇〇をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・〔提示に対して反応している子〕。 ・〔今日はこうしたいな(学習問題につながる反応をしている子)〕。 	5	○〔「こんな学習問題」に興味をもつ,「こんな問題点を感じる」〕ことができるように,〔「こんな提示, こんな場の設定, 前時の振り返り」〕をする。
	〔こんな学習をこんな観点で〕しよう(考えよう, なるう)			
展	2 どうすれば〔〜学習問題の解決〕ができそうか, 追究の見通しを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・〔こんなやり方〕をすればいいと思う。 ・〔こんなやり方〕をしてもいいと思う。 ・〔こんなやり方〕をしてもいいと思う。 	10	○〔「こんな学習問題」の解決に向けた見通しをもつ〕ことができるように,〔どうすれば「この学習問題の解決」〕ができそうかを話し合う場を設ける。 「どうすれば〜できそうかな?(実際に子どもたちに投げかける言葉)」
	〔1人目の提案〕したり,〔2人目の提案〕したり,〔3人目の提案〕したりすればよさそうだ。			
開	3 [学習課題をもとにしたこんな個人追究]をする。 【個人追究場面】	<ul style="list-style-type: none"> ・(個人追究をしているときの, それぞれの子の言葉, 思い) ・〜 ・(教師の支援を受けての子どもの反応) ・〜 ・〜 ・(教師の支援を受けての子どもの反応) ・〜 ・〜 	20	○〔こんな学習問題解決に向けた追究〕をしていくことができるように,〔こんな場(時間)〕を設ける。 ○「こんな自分の追究のよさ」に気付くことができるように,共感的な言葉がけをしたり,全体に伝えたりする。 ○〔こんな「自分の追究に立ち止まっている子」〕が再び〔こんな追究〕を続けることができるように,〔こんな支援〕をする。
	4 [個人追究をもとにしたこんな全体追究]をする。 【全体追究場面】	<ul style="list-style-type: none"> ・〔わたしはこうだよ(自分の追究の発表)〕。 ・〔ぼくはこうだよ(自分の追究の発表)〕。 ・〔◇さんは〜なんだ。たしかに〜だね(上の子について反応する子)〕 ・〔深まりをもたらす「こんな問題点」などに気付いている子の言葉〕 ・〔「問題になっている点」に答えたり,自分や友だちのよさに気付いたりしている子〕 ・〔上の子に共感している子〕 ・〔自分たちの追究のよさをまとめている子〕 	10	○〔「こんな友の追究のよさ」に気付いたり,「こんな問題点」について考えたりする〕ことができるように,〔こんな全体追究の場〕を設ける。 ○〔「こんな学習活動の深まり」をもたらす〕ことができるように,〔「こんな問いかけ」〕をしたり,「こんな子の意見」を取り上げたり〕する。
末	5 本時の追究を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・〔本時に追究した満足感を感じている子〕 ・〔次時に向けて,「こんな追究」をしていきたいと考えている子〕 	5	○〔「本時, こんな追究をしたよさ」に気付いたり,「次時に向けてこんな願いをもつ」〕ことができるように,〔こんな振り返りの場〕を設ける。

評価：〔主眼のねらい〕している。
 ~している様子, 発言, 表情, つぶやきから

英語科学習指導案(本次案) 5 学年

単元名『昔話を英語で味わおう』

平成 30 年 6 月 29 日(金) 第 4 校時
 授業会場 5 年西組教室
 5 年西組 男子 17 名 女子 14 名 計 31 名
 指導教官
 授業者

1 本時の位置 (全 4 時間扱い中の第 1 時)

次時: オリジナルの桃太郎の話を作るつづき行く。

2 本時の主眼

積極的に英語を使って表現しようとする子どもたちや、英語に対して苦手意識がある子どもたちが昔話を英語で味わう場面で、英語版桃太郎の読み聞かせを聞いて、物語の世界を楽しんだりオリジナルの桃太郎を作る活動を通して、英語のリズムに親しむことや、聞いて分かるという体験をすることができる。

3 指導上の留意点

・子どもが物語を英語で聞いて理解できるように、教師が必要に応じて分からない単語の意味を教える。

4 本時の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	指導・援助と評価
導入	13ヒントのクイズに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かった。はい!サル ・はい! dog ・はい! 鳥 ・あ、ももだ! 英語でなんて言うのだったけ。 ・え、もしかして桃太郎。 	5	<p>○子どもが英語での表現にも親しむことができるように、教師が日本語での回答に対して、「ちなみに英語でなんていう」と問い返しをする。</p> <p>「桃太郎、みんな知ってるかな」</p>
	<p>Today' s Goal: 昔話を英語で味わおう</p> <p>Today' s Point:よく聴こ 英語のリズムを感じよう</p>			
展開	2 スクリーンに映った絵を見ながら、英語版桃太郎の読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・わー!!! ・先生、見えません。 ・鬼も仲良しになるんかい。 	10	<p>「これから英語版の桃太郎をタイラー先生と演じます。聞いたことのある英語や逆に意味がよく分からない英語を意識しながら聞いてみましょう。」</p> <p>○子どもが話の筋を理解することができるように、教師がジェスチャーをつけたり表情豊かに読む</p> <p>「見えるところに移動していいよ」</p>
	3 読み聞かせの中に出てきた聞いたことのある英語を挙げていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・先生、一つだけ? ・はい! happy ・How are you? ・ 	5	<p>「今聞いてみて、聞いたことある英語何かあった」</p>
終末	4 オリジナルの桃太郎を班ごとにつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいキャラクターを作ったらよさそう。 ・終わり方を変えてみたい。 	15	<p>○子どもがスムーズに取り組むことができるように教師があらかじめワークシートを用意する。</p> <p>「オリジナルの桃太郎を作ってみようと思うんだけど、どんな工夫ができそうかな」</p> <p>○子どもが工夫のポイントを意識しやすいように教師が出てきた意見を板書しまとめる。</p>
	5 振り返りカードを記入し、発表する。		10	<p>評価: 英語のリズムに親しんだり、英語をきいて分かるという体験ができる。(学習カード・つづやき・表情より)</p>